



社協ワーカーだより



No. 59 平成29年8月

地域のみなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！

発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（TEL720-5356）
各区社会福祉協議会

平成29年7月九州北部豪雨災害の支援について

平成29年7月5日からの記録的な豪雨が九州北部を襲い、相次ぐ土砂災害や道路損壊、そして、多くの尊い命を奪うなど甚大な被害が発生しました。被災者の皆さまに対して、心よりお見舞い申し上げます。福岡市社協では、被災地の一日も早い復旧・復興を願い、下記のような取り組みを行っています。

◎朝倉市災害ボランティアセンター運営支援

7月12日より福岡県社協からの応援要請に基づいて、朝倉市社協が運営する災害ボランティアセンターに応援職員を交代で派遣しています。

《派遣した職員の声》

7月15日から4日間、朝倉市災害ボランティアセンターの運営支援に携わりました。猛暑の中、被災者のためにと活動されるボランティアの皆さんの姿に、現地の方も元気づけられていました。現地での支援、自分が住んでいる地域からできる支援、両方がこれからも必要だと実感しました。（市社協Y）

◎各区社協でボランティア活動保険の受付

被災地でのボランティア活動の際には、ボランティア活動保険にご加入ください。加入手続きは、現地での混乱を避けるために出発前に、最寄りの社協で手続きをお願いします。

◎福岡市主催の災害ボランティア講座への協力

7月12日(水)福岡市主催の災害ボランティア講座が、市民福祉プラザで開催されました。この講座では、NPO法人日本九援隊理事長 肥後孝氏と福岡大学教授 渡辺浩氏から、「被災地の状況」と「災害ボランティア活動の心構え」をテーマにお話しいただきました。会場には溢れんばかりの受講者およそ200名の参加がありました。

◎福岡青年会議所の支援活動物資の収集と運搬

7月7日(金)福岡青年会議所からの協力依頼により、支援活動物資の収集と運搬の協力を行いました。集まった支援物資は、東峰村の災害ボランティア活動に使用されるとのことです。

【問合せ】

福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター（TEL713-0777）

◎義援金の募集(共同募金)

被災された方たちへのお見舞いのために、義援金募集を行っています。寄せられた義援金は、福岡県共同募金会を通じて被災された方々へお届けします。

【募集期間】平成29年8月31日（木）まで

【義援金口座】窓口での振込手数料は無料です。

金融機関	支店名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行		00980-0-332036	福岡県共同募金会 7月大雨災害義援金
福岡銀行	春日原 (277)	普通預金 1932835	社会福祉法人福岡 県共同募金会
西日本シティ銀行	春日原 (003)	普通預金 3063234	会長 <small>おがわひろき</small> 小川弘毅

【問合せ】詳細は、福岡市社協のホームページでご確認ください。
福岡県共同募金会福岡市支会(TEL720-5350)



皆さまの温かいご支援、ご協力をお願いします。



避難行動要支援者名簿の活用支援

東日本大震災をきっかけに、平成25年6月に災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者名簿の作成が市町村に義務づけられました。福岡市では今年度より、この名簿に登載された方のうちご自身の名簿情報の提供について同意された方の名簿が、校区・地区自治協議会、校区・地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員（以下、避難支援等関係者という）に提供されることとなりました。

平常時からの見守りを進めているふれあいネットワーク活動のさらなる充実のためには、自治協議会や民生委員・児童委員との連携、協力が必要不可欠ですが、災害時にはなおさら避難支援等関係者が一体となった取り組みが必要となります。

福岡市でもいつ災害が発生するか分からない中、災害時に備えた平常時からの見守りについて、避難支援等関係者で、取り組みの必要性やどのような支援ができるかについて話し合い、方針や役割分担等を共有しておくことが重要となります。福岡市・区社協では、そのような地域の実情に応じた取り組みに対する支援を行っています。

遠い親戚からの一本の電話がきっかけで様々な支援者をつなげた事例

「幼少のころ大変お世話になったAさん（80歳代女性）が、マンションにひとり暮らしで生活に困っている。以前は活動的なAさんだったが、転倒してから外出も億劫になり、ゴミも出せず困っているのを地域で見守ってほしい。」と遠縁の親せきBさんから区社協に電話で相談がありました。早速、校区担当CSWから民生委員に状況を説明して、Aさんの訪問・見守りをお願いしたところ、後日民生委員より「ゴミが玄関にあっただけでお手伝いをしました」と報告がありました。

その後、本人から区社協に「足腰が弱く、病院の通院がままならないため困っている」との相談の電話がありました。介護保険などのサービスは、“受けたくない”との意思があるようで、これまで人に頼らずに生活してきたAさんでしたが、電話でCSWが困りごとなどを傾聴し、外出同行支援のボランティアグループに同行してもらうことを提案しました。新たな人との関わりはあまり好まれないAさんでしたが、「通院するためにはお願いしたい」ということでボランティアグループ“ひまわり”に依頼し、通院することができました。これをきっかけに、ボランティアとの繋がりができ、以前の活動的だったAさんのようなイキイキとした声が聞けるようになりました。

その後、親せきのBさんより「数日前から電話をしているが連絡が取れず心配・・・」と区社協に相談があり、それを受けて、民生委員が数回訪問しましたが面会できず、後日、社協の校区担当CSWが自宅を訪問すると、駆けつけていた別の親せきCさんに会いました。その人によると、深夜に本人が腰痛を訴えてきたので、病院に連れて行くと、腰を骨折していたため急遽入院をしたということが分かりました。これを機に親せき同士が連絡を取り合うようになり、Aさんは退院後、親せきと同居することとなったため、これまでのような心配はなくなる、とのことでした。

きっかけは、心配した親せきの本一の電話でしたが、ひとり暮らし高齢者が外出支援や地域の見守りを受けて、安心した生活が実現しました。

今月の気- (Key) になるキーワードはお休みします。

(区社協コメント等)